

実践的指導力を備えた教員の養成に関する研究（3）

－総合講義「教職実践研究Ⅱ」の実践と今後の課題－

大久保 直 志〔鹿児島大学教育学部附属教育実践総合センター〕

A Study of Teacher Development for Practical Instruction (3) : Actual Performance and Remaining Problems for "Research into Teaching Practice II"

OKUBO Naoshi

キーワード：学級経営、実践的指導力、学校体験、総合化

1 はじめに

本稿は、昨年度の同研究紀要に掲載した「実践的指導力を備えた教員の養成に関する研究（2）－総合講義『教職実践研究Ⅱ』の構想について－」を受けた実践報告である。構想から実践への過程において以下の2点を修正したため、その内容を確認しておくことにする。

一点目は、科目の内容を「学級経営及び生徒指導」から「学級経営」に変更した点が挙げられる。理由としては、教育実習前のこの時期において学級経営的視点を意識させることに重点を置きたいと考えたこと、及び生徒指導面は学級経営との関連において指導可能であると考えたことによる。

二点目は、学級経営に関する実践的指導力の捉え方をより基本的な知識及び技能、態度等に修正した点である。理由としては、養成段階の2年時で実践的能力を高める演習等を行うことが困難であることによる。実践的指導力については、前回の構想では、「①対象をとらえる力、②対象に働きかける力、③活動内容を構成する力、④実践を認識する力」の4つと捉えた。しかし、これを直接的に学修目標及び演習等に適用させることは困難である。例えば、平成20年10月三重大学において開催された日本教育大学協会研究集会において、兵庫教育大学から「小学校教員養成スタンダードに基づく実習到達基準の開発」の研究発表が行われたが、スタンダード6：「学級経営力」について、「学級目標の構造化と設定」、「学級内での生活や学習のルール設定」及び「民主的な機能的集団づくり」など実践的対応力を必要とする

項目は4年時においても到達目標としての妥当性は認められず、「学級内の友達関係とその性質の把握」及び「子どもとの相互理解を通じた信頼関係の構築」の項目については2・3年時の到達目標としての妥当性が認められるというものだった。

このことから分かるように、オン・ザ・ジョブ・トレーニングを基本とするような学級経営に関しては、養成段階での到達目標を「実践的指導力の基礎」にシフトしたものにすることが必要であると考えられる。加えて、教育実習科目でない本科目においては一層基礎的な知識及び技能、態度等に焦点化することが求められると考えたところである。

2 「教職実践研究Ⅱ」の実践について

(1) 学級経営に関する基本的知識・技能、態度

本科目では、学級経営に関する基本的な知識及び技能、態度等を以下のように仮定して捉え、「実践的指導力の基礎」とすることにした。

- | |
|-----------------------------------|
| ア 学級経営に関する基本的な知識及び技能 |
| ○ 学級経営の意義・機能、主な内容 |
| ○ 学校・学年経営と学級経営の関連 |
| ○ 学習指導、生徒指導、保健安全指導及び心の教育等と学級経営の関連 |
| ○ 学級経営の観察の観点設定 |
| ○ 学級経営案の内容構成、作成方法等 |
| イ 教員としての態度形成 |
| ○ 学級経営に伴う職責感、使命感 |
| ○ 学校体験時の教員としての言動、接遇等 |
| ○ グループ課題の追究過程における協働性 |

ウ 離島・へき地教育振興への関心
○ 小規模、複式学級における学級経営の工夫
○ 離島・へき地の学校におけるICTを活用した授業改善及び遠隔共同学習の取組

ウは本県の地理的特性に伴う離島・へき地教育振興への関心を高める点から加えることにしたものである。

(2) 学生の到達目標

学生の到達目標として以下の3点を設定した。

① 学級経営に関する講義、演習及び学校体験等で得られた知見を基に、小学校の学級担任の立場で「学級経営案」を作成し、趣旨説明及び質疑応答等を的確に行うことができる。
② 少人数、複式学級での学習指導や、情報技術を活用した遠隔教育システム等の取組事例について学び、理解を深めることができる。
③ 学校体験や演習等において、教師としての立場を自覚して行動するとともに、共に協働性を発揮し学び合うことができる。

(3) 実施環境

〔授業〕2年後期講義のほか、学校体験、試験など。学校体験は日置市内の小規模小学校7校に分散し1日実施(観察、交流、講話等)。

〔単位〕自由単位1単位

〔指導者〕教育学部附属教育実践総合センター教員(県教委招聘教員4、大学教員協力者1)

〔受講生〕教育学部13人(2年11、3年2。3年生は教育実習を経験、希望により受講。)

(4) 指導計画

〔ステップ1〕(①～④)学級経営の基本的理解

〔ステップ2〕(⑤～⑩)学校現場での実地観察、振り返り活動－発表・討議

〔ステップ3〕(⑪～⑮)学級経営案作成－発表

回	講義・演習等の主な内容
①	オリエンテーション、自己診断① 学級経営の基本的な考え方【講義】 (学級経営の機能・視点、学級経営案の概要、学級事務、児童生徒理解演習等)

	学習指導と学級経営【講義】 (学級づくりと学習指導上の配慮事項、学級経営案の中の学習指導の具体策) ② 複式学級における学習指導【演習】 (複式教育と学級経営、授業VTR視聴)
③	生徒指導と学級経営【講義】 (ソーシャルスキル演習、自己指導能力を育成する学級経営、学級経営の柱の構想)
④	心の教育・保健安全指導と学級経営【講義】 (心の教育のキーワード・推進策、健康安全指導のポイント、健康安全教育の具体策)
⑤	学校体験に向けた準備【グループ活動】 (体験日程の確認、観察の観点、具体的対応が必要な場面の想定と検討)
⑥ ⑦	学校体験(1日)【フィールドワーク】 (学級経営を中心とした教育活動の観察、実地体験、講話等－「ワークシート」記録)
⑧ ⑨	学校体験のリフレクション活動、発表資料作成【グループ活動】
⑩	学校体験の成果発表及び集団討議【討議】 (成果発表、討議、講話)
⑪	離島・へき地における情報教育の活用【講義】 (情報教育技術を活用した教育方法－遠隔教育システム、デジタルコンテンツの活用)
⑫ ⑬	学級経営案作成【演習】 (学校・学年経営案の解釈、経営案作成)
⑭	学級経営案の発表討論会【演習】 (学級経営案発表、討議、指導助言)
⑮	筆記試験、自己診断②

(5) ステップ1

オリエンテーションと自己診断を行った後、オムニバス方式で4回の講義を行った。

第1回は、学級経営とは何かということから始まり学級経営の機能及び視点、学級経営の展開(年間)、教室環境づくり、学級事務、保護者との連携など、学級経営に関する全体像を把握させる講義が行われた。

第2回は、学習指導を進める上での学級経営上の配慮事項、学級経営案のよく取り上げられる具体策の例、複式学級における指導方法の工夫などを中心とした講義が行われた。

第3回は、SST(ソーシャルスキルトレーニ

ング）演習，生徒指導の事例をもとにした演習，生徒指導の機能を生かした学級経営の在り方などを中心とした講義が行われた。SSTの演習では学生たちが互いに「ほめほめシャワー」を体験し合い，好ましい人間関係の構築に必要な態度，接し方等を学ぶことができた。

第4回は，生きる力の育成からみたまの教育・健康安全，学級の支持的風土の形成，危機管理能力の育成などを中心に講義が行われた。

これらのステップ1の講義では，主に次のような感想が得られた。

- ・今まで教科の授業しか意識していなかった。
- ・学級経営は担任をする上で重要だと感じた。
- ・学級経営と学習指導の強い関連が分かった。
- ・学習指導を行うため学級経営は重要だと思う。
- ・SST体験で褒めてもらえると嬉しく，逆に相手への褒め言葉を考えるのは難しいと思った。
- ・事例を通して教師の気付きや声かけの大切さについて考えさせられた。
- ・日ごろの子どもとのふれあいの中で心を養う教師の力量が求められていると思った。
- ・危機管理能力も学級経営に必要なだと分かった。

これらの感想はまだ断片的なものではあるが，個々の講義において学級経営に関する基礎的な要素に気付き，認識を深めていることがうかがえる。

(6) ステップ2

ア 学校体験における観察の観点設定

学級経営の観察の観点を設定する演習を1時間行った。観点設定に当たっては学生の課題意識を尊重した。以下の表に学生たちが設定した観点をまとめた。

分類	具体的な観点
朝の会	健康観察の方法／担任の話を書く児童の態度／1分間スピーチの指導
朝の活動	係活動の様子／委員会活動での異学年間の協力／読書タイムの取組
授業	複式ガイド学習の様子／学習中の雰囲気づくり（誤答の生かし方／発表を聞き合う態度）等

子どもたち	休み時間の遊ぶ様子／友だち関係／給食や掃除への取組 等
学校行事	持久走大会での指導の工夫（目標の持たせ方，健康安全面の指導）等
校長，教頭及び担任等の話	学校経営・学級経営の目標と重点／喧嘩の多いクラスの指導／特別な支援が必要な児童への配慮／基本的な生活習慣や学習習慣の育成／思いやる心を育てる学級づくり／教材研究の方法／複式指導の工夫／保護者や地域との連携 等
養護教諭の話	生活習慣改善と担任との連携／保護者や地域との連携 等
学級設営	学級内の設営物の観察（学級目標・個人目標，係活動，短学活進行表，発表型，学級会活動表，学習成果物，諸通信など）／鞆棚，掃除用具棚，歯ブラシケース等の保管 等
学校内の設営	諸目標の設営／学年に応じた学習指導や作品等の掲示の様子／学級園等の植物名札／生活標語 等

実際にこれらの多岐にわたる観察を網羅するのは困難と思われるが，教師や児童の様子を学級経営の視点から観察し，自分のもつ知識と関係付けながら学びを深めようとする意欲は汲み取ることができる。

指導に当たって，観察を基に記録した内容は前後の経緯を割愛して一場面だけを切り取った情報であり，安易に敷衍して理解することは適切ではないこと，またそこで知り得た情報は教員の秘密を守る義務が準用されるべきことなどを加えて指導を行った。

イ 学校体験


学校体験は各学校の平常の教育活動に即して行われるため，体験内容の異同は若干見られたが，凡そ以下の学校と同様の計画により展開された。


「日置市立美山小学校の例」


時程	教育活動
8:00～8:15	学校到着・挨拶，体育館へ移動
8:15～8:35	全校音楽参観，児童への挨拶
8:30～8:40	朝の会，健康観察
8:40～8:50	国語タイム参観

8:50~9:35	1校時「校長講話」 ・学校経営と特色ある教育活動、 地域の特性、教育観など
9:45~10:30	2校時「授業の観察」 3・4年(算数科) 5・6年(総合的な学習)
10:45~11:30	3校時「授業の観察」 3・4年(社会科)
11:40~12:25	4校時「授業の観察」 5・6年(算数科)
12:25~13:05	給食指導(指導補助)
13:05~13:50	休憩時間(児童との交流)
13:50~14:05	清掃指導(指導補助)
14:10~14:55	5校時「授業の観察」 1年, 2年(国語科)
14:55~15:10	下学年の帰りの会参観
15:10~15:55	6校時「授業の観察」 3・4年(総合的な学習) 5・6年(家庭科)
16:00~16:15	休憩時間
16:15~17:00	担任等との懇談(質疑含む) 学校職員へのお礼, 退庁

紙面の都合から、ここでは上記の学校で観察を行った学生の記録を基に観察内容を紹介する。この学生は、「①学級目標・ルール②教師の子どもたちへのかかわり方③授業と学級経営の関係」の3点を観点に設定して観察している。

項目	主な内容
①学級目標・ルール	<p>○学級目標 「よく考えて勉強する／喧嘩をせず助け合う／さっと行動する」</p>  <p>○給食当番のてきぱきした配膳、他の児童も手洗い後トレー配布など役割分担。食事中は終始和やかな会話、よく話しかけてくれた。終わり近く先生が少し急ぐように声掛けするとペースを速め、片づけも協力的。歯磨きは各自砂時計で3分間できた。</p>

	<p>○朝の会では、元気な朝の挨拶、手話で朝の歌。歌詞からも思いやりの心の大切さが伝わると感じた。一日の行事や活動を確認し意欲づけた。</p> <p>○健康観察では一人一人の名前を呼び顔を見ながら体調確認、排便の有無も確認するなど健康管理も担任の大切な仕事であると感じた。</p> 
②教師の子どもたちへのかかわり方	<p>○昼休みに学級で飛び縄をして遊んだ。苦手な子にも「ドンマイ、ドンマイ！」と声を掛け合うなど思いやりがあるクラスだと感じた。</p> <p>○掃除の時間は教師も一緒に作業。時折会話を交わしながら楽しそうに作業していた。</p> <p>○帰りの会では、翌日の授業や持参物の確認、元気に挨拶し児童の下校を見送っていた。</p>
③授業と学級経営	<p>○複式の授業(算数)では3年生の直接指導時にプロジェクターを活用し児童とのやり取りを大切にしていた。児童のつぶやきも拾いながら授業に生かしていた。4年生はガイド学習で主体的に学習を進めていた。普段の指導がしっかりとされていると感じた。</p> <p>○社会科でグループ毎に調べたことを模造紙にまとめる作業の折、児童間の発言に関して「喧嘩になるような言葉遣いはやめようね」と注意された。「喧嘩をせず助け合う」と学級目標にあり、授業との関係の強さを感じた。</p> <p>○なかなか挙手できない児童に対する声掛けなど工夫され、一人一人の児童を大切にしようとする教師の気持ちを感じた。</p>
④全体的な事柄	<p>○「花で育て、本で育て、自然で育てる」のテーマどおり、学級園の花づくり、盛んな読書活動、もち米づくり、山坂達者での体力づくり、焼き物の里の伝統を生かした茶道教室、妙円寺詣りの武者行列など地域と連携した特色ある活動がたくさん見られた。</p>

<p>○学校内の掲示物がきれいに設営され、児童の靴や遊び道具などもきれいに整理整頓されていた。</p>	
---	---

この学生の場合は、自分の設定した観点に即して観察できたものと思われる。内容的には配属学級の学級目標が視点となっている。観察内容を見ると、教師の声かけや児童同士のやりとりなど、日常的な場面をよく見ており、そのことを自分の知り得る学級経営の知識や理解に関連付けて捉えようとしている。このような事実の把握や理解は学校体験でなければできないところである。

ただ、中には観察の観点設定が思うようにできず、観察が十分にできなかった学生や、希望する学校種でなかったため参加意欲が低下したという学生もいた。

ウ 発表討論会

学校体験を通じて学んだ事柄を振り返り活動において整理させ、発表し合う時間を設定した。また引き続いて、「よりよい学級経営をするために大切なこと」というテーマで討論をさせた。主に話題となった内容を以下に整理した。

観 点	主な話題
①教師の考え方、工夫等	<ul style="list-style-type: none"> ・担任同士の協力（多角的な子どもの理解、経営の相談・協力） ・学校、学年教育目標の理解 ・学級経営方針と具体的手立てを日常的に意識すること ・一人一人への公平公正な対応
②教師の子どもたちへのかわり方	<ul style="list-style-type: none"> ・学年初めの学級開き、各学期初めの集団づくりの大切さ ・日常的な人間関係づくり（エンカウンター、ソーシャルスキル等） ・心理的ストレスのある子どもへの援助 ・多様な人間関係の場づくり ・一人一人の活躍の場づくり（学校行事、学習成果発表） ・子どもの性格や家庭の事情等に応じたきめ細かな対応

	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を自立解決できる力の育成（けんかのルール）
③環境設 営の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく、教育的な雰囲気づくり（花、樹木、整理整頓、清掃） ・互いの努力を認め合う掲示（学習成果、作品等） ・規律正しい生活、学習方法の掲示（発表話型、生活目標、他） ・掲示物の高さ（子どもの身長に合わせた見やすい位置） ・定期・コーナー的掲示物、季節・行事のトピック的な掲示の工夫

学生たちは、観察の具体を基に自分なりの学級経営のポイントを討論し合ったわけだが、それらは単なる知識ではなく、個々の実感的理解を経て表出されているように感じた。個々の情報にとどまっていたものが振り返り活動及び発表・討論会で共有し比較検討し合う過程で精査されたのであれば、指導者として今一步、学級経営の全体像にこれらの話題を関連付けて理解させることにより、「体験知」としての理解に高めていくことができたのではなかろうか。今後はそのような発展的思考まで見通した指導を工夫する必要があると感じた。

エ 学校体験の事後アンケート

学校体験に関する事後アンケートを実施した結果は以下のとおりであった。（5段階評価）

<p>「学校体験は有意義でしたか。」（平均4.7）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の役割が改めて分かった。 ・少規模校の特色や複式授業を実際に観察することができた。 ・学校経営や学級経営について観点を持って観察することができた。
<p>「学級経営の観点から観察を行う価値がありましたか。」（平均4.6）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習では学級経営という視点で観察する余裕はなかったが、学級経営の大切さを改めて感じた。（3年生） ・実際に教員になる前に学級経営について学ぶ必要があると思う。 ・学級経営の視点は大切と思うが自分にはまだ

観察や理解は難しい。

・授業ばかりに意識が向きがちだが、学級経営には多くの学ぶべきことが隠れていると思った。

・学校の仕組みを分かってこそその学級経営だと思った。

「教師の仕事について理解が深まりましたか。」

(平均 4.7)

・学級経営における担任の配慮や指導への理解が深まった。

・授業だけでなく細かな仕事もしていることが分かった。

・授業ができるだけでは担任は務まらないことが分かった。

・子ども一人一人を知ることの大切さ、子どもとのかかわり方を学んだ。

この結果からは、学校体験を通して学級経営及び教職への理解の深化が図られたことがうかがえる。2年時の段階では、学級経営に関する科目が少なく、観察の機会も少ないことなどが影響していると思われるが、教育実習の前にこのような気付きを持たせることができたという点では学校体験の意義は大きいのではないかと考える。

(7) ステップ3

第11回は、目標②を受けて、離島・へき地の学校におけるICTを活用した授業改善及び遠隔共同学習の実践事例の説明と、デジタルコンテンツの検索及び利用方法に関する講義が行われた。受講後の感想には「遠隔共同学習は児童同士直接情報交換を行う点でインパクトが強い」「デジタルコンテンツは離島・へき地の学校でも本土と変わらない教育を受けられるようにする重要な教材だ」「遠隔共同学習システムの利用によりコミュニケーション力を高めることができる」など、有効性や活用への意欲の高さが顕著に見られた。

第12～14回は、学級経営案作成演習を行った。まず、指導者から「青空小学校(架空)」の学校・学年経営案と1～6年生までの学級の実態を記述した資料を配布・説明し、それらの中から学生が担当学級を選定して学級経営案を作成するという順序で進めた。2週を作成に、最後の1週を

発表・討論に充てた。

次頁の学級経営案は、ある学生が作成したものである。この学生は、6年2組を選択した。担任するに当たり、「集団」と「個」の二つの視点から学級経営方針を設定している。「集団」の成長としては、挨拶・マナー等の習慣形成と、学校行事や委員会等におけるリーダーとしての役割意識、自覚化などを掲げている。また、「個」の成長としては、将来への目標や願いを持つこと、相互のよさや努力を認め合い協力していくことなどを掲げている。

指導者の側では、この学級の実態としては「課題の提出率は高く予習復習もできており、あいさつなどは下級生の手本となっているが、グループ化がすすみ友達関係が限定されており、不登校児童もいる」と設定していた。

これを受けて、この学生はスローガンを「未来へ羽ばたけ6年2組」と設定し、学級経営の具体策として、運動会等の学校行事、環境リサイクル運動、人権同和教育に基づく劇づくりなどの集団活動を通して、役割意識や相互の協力の大切さを理解させようとした。また、保健安全指導では養護教諭との協力授業や交通安全指導などが書かれており、基礎的な要素を把握できていることが分かる。一方、生徒指導の欄にはいじめや不登校の解消・予防を入れ、何らかの手立てを講じたいという気持ちは表れているが、具体的な方策は見えていない。また、学習指導では主体的な学習習慣が身に付いている実態を生かして学習指導の具体策を期待したが、「読・聞・書・算の徹底」という段階でとどまり、学年の指導の系統について考慮することが難しかったことがうかがえる。

他の学生の学級経営案も同様に、基本的な知識等や学校体験から学んだ知見を生かしたものとなっている半面、内容の整合性や実現性からみると、「学級経営の構想」と呼ぶには多くの未熟さが残るものであった。だが、総じてどの学生にも共通していえることとして、学校経営・学年経営とのつながりを考慮していること、学級担任という当事者意識が感じられること、そして、学級を預かる責任において問題をどう解決するかというイメージを持ちながら具体策を考えていることな

第(6)学年(2)組 学級経営案

男子(11)人、女子(4)人 計(15)人
担任 ()

思いやりをもち 【学校教育目標】
自ら考え、たくましく生きていく力をもち、希望への子どもを育てる

【第6学年の経営】

◎学年教育目標
お互いを尊重し、話し合いながら協力して充実した学校生活を過ごす子どもを育てる

◎学年経営の重点
・最高学年の自覚、学級の自覚
・協力的な学びを深め合う学習態度
・下級生の模範となる生活態度
・健康的な生活習慣の育成

学年で育てる子どもの姿

お互いを尊重し、助け合う。

学習習慣を身に付け、主体的に学習する。

自分の体かに合わせてあてをもち、計画的に運動する。

みんなの力をいれ、仲間づくりを進めたい。

【学級経営方針、重点課題など】
「あいさつ・ルール・マナー」等の習慣を定めて、まなで指導するとともに、他学年との関わりや行事・委員会などの活動においてリーダーとして自分の役割を果たす。・資料に対する目線や態度を高めることと大切にし、お互いの良さを認めあえるよう努めたい。

【学級の実際】

- ・課題の提出率が高い
- ・学習・復習ができています
- ・あいさつが学風はいい、下級生のお手本になっている

- ・不登校の生徒がいる
- ・グループワークが確立しており、その中で活動している

◆ 学級目標（スローガン）

未来へ羽ばたけ 6年2組

◆ 学級経営の具体策

学習指導	進路指導	生活指導	進路教育	家庭との連携
・読・聞・書・算の徹底 「読」…朝読書タイムの設け 「聞」…読み聞かせ、朝の時間スローチ 「書」…一言と帳、鉛筆の持ち方の徹底指導 「算」…四則計算の定着	・お互いを尊重し合えるように、「自分を知り、他人を知る」授業を行う。また、喜劇の研をとりつけよう。精神的な面と規律的な面の2方向からの指導を行う。	・言葉遣いの指導 ・早寝早起、朝食をとり大切さの指導 ・いじめ、不登校の防止・解消 ・身の周りの整理整頓	・おんなごりサイクリング活動、を行う環境保全に自分か何をしていくかを考える。	・母親より、「ローモ」のラムを作り、PTAとの連携を取り合う
・委員会やクラブ活動でのリーダーとしての役割を果たすために、始めの段階で「おんなごり」の「像」を完成させる ・運動会や文化祭で、様々な役割を果し、協力することや自分か何をしていくかの経験に努める。(児童主体)	・おんなごり「朝」の徹底の大切さを教える授業を組む、看護の先生や給食の先生との連携 ・交通安全指導の定着と通学路、その周辺の状況をしかり把握しておく	・おんなごり「朝」の徹底の大切さを教える授業を組む、看護の先生や給食の先生との連携 ・交通安全指導の定着と通学路、その周辺の状況をしかり把握しておく	・おんなごり「朝」の徹底の大切さを教える授業を組む、看護の先生や給食の先生との連携 ・交通安全指導の定着と通学路、その周辺の状況をしかり把握しておく	・おんなごり「朝」の徹底の大切さを教える授業を組む、看護の先生や給食の先生との連携 ・交通安全指導の定着と通学路、その周辺の状況をしかり把握しておく

どが挙げられる。実際に学級経営に携わった経験は持たないが、学級経営案作成という演習を通して臨場感を持たせることができたものとする。

3 自己診断にみられる事前事後の変容

本科目では「教師として求められる資質能力」診断表（以下、「診断表」と記す。添付資料1）により、オリエンテーション時と試験後の2回にわたり自己診断の変容を調査し、その結果を添付資料2にまとめた。

診断表は、平成18年7月中教審答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」の別添資料1「教職実践演習（仮称）について」（pp. 60-65）をもとに一部修正し診断様式に再構成した。

(1) 各診断項目の度数の変容について

診断項目は「1 職務遂行、資質能力の向上」「2 児童生徒理解、学級経営」「3 教科等の指導力」「4 職責感、教育的愛情」の4つに区分されており、各々の3～6の細目について4段階評価で自己診断するようになっている。今回は受講生が少なく、自己診断の個人差を平準化し一般的傾向を見出すことが困難なため、統計的処理は行わ

ずに変容の度合いの特徴に着目することとした。度数に薄い網掛けをした箇所は事前より事後が1ポイント上がった部分で、濃い網掛けは2ポイント上がった部分である。

各項目の度数平均をみると、最も変容が大きいのは「2 児童生徒理解、学級経営」の「③計画的指導・学級経営」で0.8ポイント上がっている。個々の変容を見ると、「2 ③ア学級経営の理解」の項目を中心に濃い網掛けの群が認められる。また、「3 教科等の指導力」の「②指導技術」も0.5ポイントと大きく上がっており、「3 ②少人数・複式学級」や「3 ③ウ個への対応」などの項目周辺にも網掛けの群が見られる。その他「1 職務遂行、資質能力の向上」や「2 ①児童生徒理解」、「4 ②連携協働」の周辺も薄い網掛けが散見される。個人差は否めないが、これらの箇所において学習成果が上がったものと考えられる。一方、「2 ②ア：コミュニケーション能力」や「2 ②イ信頼関係」「4 ②ア社会人としての自覚」などは高まりが期待されたものの度数の変容はあまり見られなかった。事前の自己診断で既に高い数値が見られたことも原因の一つと思われるが、同じ評

価でも質的変容があったことが予想される。その部分が重要なところであるが、今回はその詳細については把握することができなかった。

(2)「学級経営」に関する記述の変容について

事前事後の診断時に「学級経営とは何か説明せよ」という共通の設問を課した。講義の中では学級経営の定義について、「学校教育目標の達成のために、学習指導や生徒指導等を総合化し、学級内の人間関係を促すほか、学級の環境整備を行うなどの計画的・継続的な教育活動」として説明を行っている。ここでは自分の理解を文章化させることにより変容を把握することをねらいとした。

添付資料2後半にあるように、事前の説明文は、文字数が少なく、「雰囲気」や「小さな社会」、「うまくいく環境」など抽象的な語句が散見され、文の体裁をなしていないものも見られる。一方、事後の説明文では、多いもので7行に及ぶほど文字数が全体的に増加しており、「学級目標」や「集団経営／学習経営／環境経営」、「計画的・継続的」、「集団としてのまとまり」、「個性の伸長」など説明に適した語句が増加している。また、学級経営の目標を意識した表現が見られるようになったことも特徴といえる。例えば「学級目標を達成するために」、「その学級においてすみよい環境をつくるために」、「子どもたちが学校生活を送るに当たって有意義に過ごせるように」などである。

これまで、学習指導、生徒指導等を個別に捉えがちであった学生が、学校教育を実践する基本単位である「学級」に着目し、学級経営の目標達成に向けて、学習指導や生徒指導等を「総合化」して捉えようとしていることは、学級経営の基本的な知識及び技能、態度等の要素の中でも極めて重要な部分であると考えられる。今後は、年間を通して計画的・継続的に営まれる教育活動であり経営であることを理解させていくことも課題と考える。

4 成果及び今後の課題

今回の実践を通して主に次のような成果並びに課題を得ることができた。

[成果]

○ 学級経営に関する基本的な知識及び技能、態

度等を基に3ステップの指導過程により実践した結果、学級経営に関する基本的理解及び認識の深化について一定の成果を得ることができた。

○ 学校体験、振り返り活動等により「体験知」に近接する学びに高める手がかりが得られた。

[課題]

○ 実践的指導力の観点から、基本的知識・技能、態度等の妥当性を引き続き検証する必要がある。

○ 実践的教職科目群及び他教職科目の内容的関連を精査し、本科目の位置付け及び指導内容を吟味する必要がある。

5 おわりに

本科目は昨年度に引き続き2年生後期に2回目の授業を実施する。今回の成果及び課題を踏まえ少しでも改善を加えて実践に臨みたい。

加えて、平成22年度入学生から必修化される「教職実践演習」のカリキュラムの検討に伴い、本学部でも養成段階の到達目標の目安とする「教員に求められる資質能力」の検討が進められている。今後はこの到達目標との整合性も視野に入れて、学級経営に関する実践的指導力の育成の在り方をさらに模索していきたい。

[参考文献]

鹿兒島大学教育学部特別教育研究経費事業「平成20年度中間報告書」pp.47-57

平成20年度日本教育大学協会研究集会発表資料

「小学校教員養成スタンダードに基づく実習到達基準の開発」(兵庫教育大学 別惣淳二ほか)

（添付資料1）

4	3	2	1
4	3	2	1

ウ 学習指導要領や年間指導計画をもとに、各単元の目標や指導内容及び単元相互や各学年の学習の位置づけなどを確認し、教科等の学習を体系的に捉えることができま

② **主体的な指導方法や指導技術に関する基本的な理解**
 ア 学習のねらいや内容を明らかにしながら、導入・展開・終末の基本的な指導過程にそって、一単元時間の学習指導案を作成することができま

③ **授業設計や評価に関する基本的な理解**
 ア 目標を設定した具体的な子どもの姿を「評価規準」として設定し、計画的に評価

4	3	2	1
4	3	2	1

④ **職業感や教育の愛情、社会性や人間関係能力等に関すること**
 ア 教師は子ども

⑤ **他者との連携や関係など**
 ア あいさつや服装、言葉遣い、同僚や保護者への接し方など、社会人としての基本

4	3	2	1
4	3	2	1

Q1 「学級経営」とは何か、自分なりの考えを書きなさい。
 Q2 4月から希望校種の学級担任をする予定と仮定した場合、どのような学級づくりをめざすか。また、そのために特に大切にしたいことは何か書きなさい。
 Q3 学級経営を行う際に、力量をさらに高め、理解を深めておく必要があると思うことがあれば書きなさい。

1	上	1
2	やや低	2
3	やや低	3
4	低	4

教師としての資質能力に関する自己診断(実践研究Ⅱ)
 () 学科・専修 希望校種(小・中・高・特支) 氏名()
 学籍番号()

1 自分の職務遂行の資質能力の改善・向上に関すること
 現在の自分の状況について、4段階で自己評価する。

4	3	2	1
4	3	2	1

2 児童生徒理解や学級経営等に関すること
 ① **児童生徒理解**
 ア 子どもの発達段階などの基本的理解に基づきながら、子どもの声に耳を傾け、

② **児童生徒への的確な指導・働きかけ**
 ア 明確なあいさつや呼びかけなど、子どもとのコミュニケーションをとるための基本的なことがらを大切にしながら、子どもと接することに努めている

4	3	2	1
4	3	2	1

③ **教育的な指導・学級経営**
 ア 学級経営や学級経営案についての基本的な理解はできていますか。

イ 学校の経営方針や子どもとの姿態や課題に基づきながら、学級の子どもたちの課題、指導の方針を明確にして、計画的・継続的に指導することができま

ウ 集団の活動を通して一人一人が成長できるように、集団のルールを大切に

エ 指導の進め方などについて、子どもたちにはもちろん、他の学級、教職員や保護者の理解や協力を得られる、説明責任を果たせる指導・経営を進めることができま

3 教科等の指導力に関すること

4	3	2	1
4	3	2	1

① **指導内容に関する基本的な理解**
 ア 学習指導要領をもとに、担当する教科や指導の在り方について、体系的な理解ができていますか。

イ 教科書や資料などを分析して授業で扱う内容の教育的価値や目標を明確にするとともに、指導すべき基礎的・基本的な内容を明確にすることができま

